

書類

除籍簿

昭和四年四月十五日 起案

捺印

昭和四年六月十七日

捺印

案者捺印

發付後起

案者捺印

主務局部  
取扱者捺印

案者捺印

案者捺印

案者捺印

大臣

次官

書記官

副官

第一課長

第二課長

局長

局員

(主務) 軍務局長

第一課長

第二課長

局長

局員

軍需局

經理局

艦政本部長

總務部長

第三部長

第一課長

第二課長

昭和四年六月十七日

大臣

横須賀 鈴木 守村

長官 宛

長官 宛

發

發付後再回ヲ要ス  
艦政本部總務部第二課

號番

官房第三二五三

專

官

官

編號	F.601	原封機期	發付迄	完結迄	永
16	4001				永

指	取	永
定	扱	久
年	年	年
20	20	20
年	年	年
完	完	完
結	結	結
迄	迄	迄

局部	受月日	發月日
官房	4.18	4.18
軍務		
人事		
教育		
軍需		
醫務		
經理		
建築		
法務		
艦政		
軍令		

4.6.18

除籍艦船ノ處分ニ関スル訓令

本年四月一日除籍艦船中波脚第八、第九潜水艦  
外ハ特務艇雜役船及除籍艦船取扱規則第十  
六條後段ニ據リ廢却處分ヲ取計ルベシ。

（第一項）

（終）

一 除籍艦船 特務艇形艦 一隻

波脚第八乃至第十号艦 一隻

二 波脚第八、第九、潜水艦中ハ此等ノ長也艦ヲ以テ將來造船廠ニ移シテ  
修理スルコトヲ考慮シテ處分ニ據リ廢却處分ニ取計ルベシ。

三 規則ニ據リ廢却

（第一項）

波脚第八、第九、潜水艦中ハ此等ノ長也艦ヲ以テ將來造船廠ニ移シテ  
修理スルコトヲ考慮シテ處分ニ據リ廢却處分ニ取計ルベシ。

（第二項）

（終）



七月十二日出発有る旨は、  
件一以、  
協議、  
不、  
相、  
成、  
事

理由

慶應義塾、  
残骸、  
検、  
査、  
手、  
続、  
中、  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、  
二十一、  
二十二、  
二十三、  
二十四、  
二十五、  
二十六、  
二十七、  
二十八、  
二十九、  
三十、  
三十一、  
三十二、  
三十三、  
三十四、  
三十五、  
三十六、  
三十七、  
三十八、  
三十九、  
四十、  
四十一、  
四十二、  
四十三、  
四十四、  
四十五、  
四十六、  
四十七、  
四十八、  
四十九、  
五十、  
五十一、  
五十二、  
五十三、  
五十四、  
五十五、  
五十六、  
五十七、  
五十八、  
五十九、  
六十、  
六十一、  
六十二、  
六十三、  
六十四、  
六十五、  
六十六、  
六十七、  
六十八、  
六十九、  
七十、  
七十一、  
七十二、  
七十三、  
七十四、  
七十五、  
七十六、  
七十七、  
七十八、  
七十九、  
八十、  
八十一、  
八十二、  
八十三、  
八十四、  
八十五、  
八十六、  
八十七、  
八十八、  
八十九、  
九十、  
九十一、  
九十二、  
九十三、  
九十四、  
九十五、  
九十六、  
九十七、  
九十八、  
九十九、  
百

終

供覽

監官

經理局

監官

1101

副官

歎願書

東京市京橋區築地二丁目十五番地

海運業

歎願人 尾城満三

(前歎願書提出時住所  
東京市日本橋區北新橋町七番地)

一、歎願趣旨

廢艦「津輕」ハ沈没現状ノ決之レテ歎願人ニ有

償御拂下ノ御詮議相成度ニ

但右「津輕」ハ昭和三年六月一日付歎願書

ヲ以テ無償御拂下ヲ願出タルモ無償ニテハ

御拂下難相成トシテ其後採算上ノ有

償ノ可能ヲ認メ茲ニ改メ歎願書及テ呈上ス

官印

經理局  
4.7.15  
度接

左記事由御参酌の上御協賛の御趣旨  
 之以テ相成ベク低率ニ御拂下ノ御詮議相  
 成度ク希望ニ堪エサルモノナリ

一、歎願事由

廢艦「津輕」ハ先年武装ヲ解キ重要諸機  
 関ハ引揚ケラレ其ノ殘骸ハ我海軍實彈威  
 力試験ノ爲標的トシテ御使用セラレ現横須  
 賀軍港外数海里ノ沖合ニ實彈命中破壊  
 ニタレ俟今尚ホ波浪ニ委レツツアリ今之カ引揚  
 ヲ為サントセハ多額ノ資金ヲ要ス可キハ勿論ナ  
 レトモ苟之ヲ國家經濟ノ上ヨリ考察スルトキハ  
 此ノ俣海底ニ没シ去ルノ損失ニ勝ルコト亦勿論



ナリトス依テ歎願人ハ之カ御拂下ヲ受ケテ解  
體處理ニ因テ得タル利潤ハ我海員振濟會  
ニ寄附シ同會事業助長ノ資ニ供セントスル  
モノナリ

帝ハ歎願人ノ微意ヲ酌ミ特別ノ御詮議ヲ  
以テ願意御聽許アレシコトナリ

### 一、歎願人概歴

歎願人先代滿友ハ明治十三年中ヨリ海運業  
ヲ営ミ數艘ノ船舶所有者トシテ聊カ世上ニ知  
ラシ我經濟界ニ盡ミタル功績數カラサリシカ  
日清役ニ際シテハ御用ニ應ジテ所有船舶萬  
國丸參千五百噸日の出丸貳千六百噸ヲ以テ

陸海軍輸送ニ從事シ日露役ニ當リテ八明  
保ノ九千六百噸武藏野九千噸上野  
九千五百噸東洋九千六百噸ヲ軍用ニ  
供シ是亦陸海軍輸送ニ努力シタリ

勲願人ハ明治三十九年先代滿友ノ業ヲ繼  
キ日露戰役終了直後我海軍ヨリ拿捕  
船吉林九千噸磯部九千八百噸ノ保管  
寄託ヲ受ケ後千磯部九ノ御指名御拂下  
ヲ受ケタリ

越エテ日獨戰爭起ルヤ我海軍ノ為ニ所有船  
巖島九千六百噸ヲ軍用ニ供シ輸送ニ努  
メタリ勲願人ハ引續キ海運業ニ從事シ





現に海員被濟會東京支部特別評議員  
ノ職ニ在ルモノナリ

右歎願候也

昭和四年七月拾貳日

右

尾城瑞三

海軍大臣財部彪閣下